

## contents

「仮性包茎なんて言葉はやめてしまえ」プロジェクト…………… 1	思いこみのめがね <sup>⑱</sup> …………… 12
第10回世界性の健康デーin東京・報告…………… 8	多様な性のゆくえ <sup>⑳</sup> …………… 13
性教育の現場を訪ねて <sup>㉑</sup> …………… 10	今月のブックガイド…………… 14
	JASEインフォメーション…………… 15

## 「仮性包茎なんて言葉はやめてしまえ」プロジェクト 身体の自律と保全に関する国際比較研究

東海大学教養学部国際学科教授 小貫 大輔

### 仮性包茎なんて言葉はやめてしまえ！

「包茎になるかもしれない…」高校生だったころ、そういう不安をいただいたことを思い出します。雑誌を開けば「包茎は男の恥、短小・早漏のもと」といった話であふれているし、大人向けのマンガといえばことあるごとに包茎を揶揄しています。銭湯にいけばたいがい大人のペニスが見事にむけているし、自分の父親も確かにそういう姿をしています。それに対して自分のペニスはというと、どう見ても自然にむけてくる気配なんてありません。「包茎になるかもしれない」んじゃないくて、「これって包茎そのものじゃん！」という恐怖なわけです。「お父さんは何歳でむけたの？ どうしてむけたの？ どうしたらむけるの？」と聞けばよかったのかもしれませんが、私にはとてもできませんでした。

雑誌には「包茎手術」の広告がさんざん出てくるのですが、高校生の自分にはそんなお金はないし…。結局どうしたのかというと、「これ以上待ってられない」と考えて、亀頭が露出したままになるように自分

で包皮をむいて「訓練」してみたのでした。バレーボール部に入っていたので、練習のたびに擦れて痛くて、トイレに駆け込んでもとに戻したり、練習が終わるとまた包皮をむいて、そっとパンツの中にしまっただけで…。ああ、大人になりたいが一心の、何と涙ぐましい努力であったことか。

3か月ほどもそんなことを続けると、なんとその「訓練」は成功していたのでした。あれから40年がたった今となっては、以前のようにかぶせてやろうとしても、すぐにまた元に戻ってしまいます。アフリカ南部・東部の一部の地域では「小陰唇伸長」といって、女兒の小陰唇を母親ほか家族の女性たちが引っ張って引き伸ばす習俗があるそうですが<sup>(1)</sup>、私に起きたことはその反対で「包皮縮短」とでも呼べるようなことでした。

幸い、近年はネット経由で「日本人の7割は仮性包茎」というものの言い方が広がっているようで、若い人たちの間には「むけてないのが多数派なら、ひとまずはまあいいか」という安心感も生まれているのかもしれませんが、ちょっと待ってください。「7割が仮性包茎」なら、その状態が正常なのであって、なんで「仮性」などという病気の一步手前みたいな言葉

を使うのでしょうか。むしろ3割の「むけてる」人たちの方に、自然の発育のプロセスとは違う「何か」が起きているのではないのでしょうか。

「むけたペニス」は、自然にそうなるのではなく、実は日本独特の文化的プレッシャーから「作られたもの」、つまり意識すると意識しないにかかわらず人為的な身体改造の産物なのではないか…、私はずっとそのように考えてきました。そして昨年、とうとう、文部科学省の科学研究費補助金（科研費）を獲得し、「身体の自律と保全に関する研究（国際比較）」と題してこの仮説を科学的に追究していくことになりました。この研究には、インターセックスやトランスジェンダーの人たちと医療のよりよい関係性を追究するプロジェクトも含まれています。共同研究者は、過去に日本性教育協会（JASE）会議室で開催された2つのシンポジウム、「My Body, My Life? 身体と性の自律について?」（2014年）と「男児の性器切除と身体の自律性・完全性に関する権利」（2017年）<sup>(2)</sup>を企画・主催してきた大阪府立大学の東優子教授です。

私が参加する分担研究には「日本人男性のペニス包皮をめぐる身体イメージと保健行動に関する研究」というタイトルがつけられているのですが、私の中では「仮性包茎なんて言葉はやめてしまえ！」プロジェクトです。この研究では、世界各地の研究者と協力して「包皮のケア」についての国際比較をする計画で、まずは手始めに日本における実態を明らかにするべくインターネットを使ったアンケート調査を実施したところです。その結果はまだ分析途中なので速報値のようなものしか紹介できませんが、本稿では、私自身の経験の他に、どういう理由で私たちが「仮性包茎」という言葉を不適切であると考えるにいたったか、包皮をめぐる日本の文化と海外の文化を比較しながら述べてみたいと思います。

## 海外には仮性包茎という概念がない

まずそもそも明確しておきたいのが、「仮性包茎」という言葉は英語をはじめヨーロッパの言語には存在しないということです。西洋文化圏では、ペニスには「包皮を切除したペニス」と「包皮を切除していないペニス（よって亀頭が包皮におおわれているペニス）」しかなくて、後者にあえて名前を与えるなら「自然な

ペニス」としか言いようがないのです。

世界には、信仰や部族への所属の証として包皮を切除する「割礼」の文化が多々あります。ユダヤ教徒やイスラム教徒がよく知られた例ですが、アフリカの多くの地域や太平洋の島々でも割礼がおこなわれ、古くはマヤやアステカの文化でもおこなわれていたようです。そういう文化を持つ人たちと、そうでないヨーロッパの人たちとではペニスの外観が違うものです。ナチスはユダヤ人の子どもをみつけるために、小学生にパンツを脱がせて確認したという話があるほどです。また、20世紀になって医療者が乳幼児の包皮切除を推奨してきた米国では、「生後2日以内に切るのが当たり前」という考えが定着しています。つまり、亀頭が露出しているか露出していないかの違いは、切っているか切っていないか、つまり民族や国籍の違いなのです。私は、24歳のときにスペインのヌーディストビーチにいったことがあります。そのとき、そこに横たわる男性たちの（大小のサツマイモのような）ペニスがすべて（！）包皮におおわれているのを見て大きな衝撃を受けました。「そうだと思った！」と叫んだのをおぼえています。高校生のように悩んだ自分がかわいそうに思えて悔しかったのでした。

その後、性教育の勉強のためハワイ大学に留学したのですが、米国人の指導教授に日本の若者の「包茎の悩み」を説明するのにどんなに苦労したことか。「仮性包茎」という言葉が英語には存在しないことを知ったのもそのときです。「包茎（phimosis）」という言葉はあります。病変などによって包皮が亀頭に癒着していたり、包皮開口部が狭すぎて容易に亀頭を露出させられないことをいいます。つまり医学用語の「包茎」とは、日本という「真性包茎」のことだけを意味するのです。

ただし、新生児は全員「包茎」の状態で生まれてきます。つまり包皮が亀頭に癒着していて、包皮開口部も狭いので、引っぱってもむけない（翻転できない）のが当たり前のことです。そのことで、ある意味完璧に亀頭が保護されているわけです。無理をして引っ張ると、癒着がはがれて出血したり、包皮の狭いところが輪ゴムみたいに亀頭をしめつけて元に戻らなくなったりするので、絶対やってはいけません。乳幼児の包茎を、大人の「病理的」な包茎と区別して「生理的包茎」といったりもします。生理的包茎は、たいていの場合、ペニスの成長とともに自然に解消されていきます。生

理的包莖が日本でいう「仮性包莖」のことかという、それは違います。生理的包莖は、乳幼児期に「むこうとしてもむけない」ときのペニスを言うのであって、大人のペニスが「むけばむける」のなら、それは「自然なペニス」としか言いようがないのです。

なぜ日本には「仮性包莖」なんて「病気の一步手前」みたいな言葉が存在するのでしょうか。高校生のとき家にあった医学事典で包莖のことを調べたことを思い出し、今なら何と書いてあるのか図書館で確認してみました。「包莖」の項には、「成長しても亀頭が露出しないもののうち、手で簡単に露出できるものを仮性包莖といい、露出の困難なものを真性包莖といいます」とあります。でも、「仮性包莖」って医学用語なんですか？ 同じ項には「普通、陰茎の先の亀頭は、幼児までは包皮という皮膚におおわれています。しかし、成長すると亀頭が露出してきます」ともあります<sup>(3)</sup>。それって本当なのですか？ 大人になると自然に亀頭が露出したままになるのでしょうか？ それって、何かの研究結果に基づいた記述なのですか？

## 1995年の日本・ドイツ比較 「突撃インタビュー」調査

性教育に携わるものとして、いつかこのことを明らかにしようと思ってきました。パイロット・スタディ（試験的な調査）と称して、「突撃インタビュー」を取行したこともあります。ある夏の日、鎌倉の海水浴場で100メートル四方の範囲を決め、そこに座って休んでいる男性全員（有効回答97人）に、あなたのペニスの包皮はどうなっていますか、それはどうしてそうなったのですか、と聞いて回ったのでした。質問項目は事前に用意して、それをインタビューアーが読み上げました。対面インタビューにしたのは、そうでもしなければ最後までアンケート用紙に記入してくれる人なんかいないんじゃないかと思ったのと、「むけていたらこっちの質問にいく」、「むけていなかったらあっちの質問にいく」といった仕組みがわかりづらいと思ったからでした。国際比較もしてやろうと思って、その同じ夏にドイツのベルリンに寄った際、あるヌーディスト公園で同じ調査を実施しました。全裸で日光浴をしている男性全員（有効回答52人）に答えてもらったので、こちらは実物の目視もできたわけでした。私

が34歳の大学院生だった、1995年のことでした。

結果は、予想した通りのものとなりました。通常時（勃起していないとき）の大人のペニスは「むけているものだと思うか、むけてないものだと思うか」と聞くと、日本の男性は63%が「むけている」のが一般的だと答えました。ところが、ドイツ人でそのように答えた人は一人もいない（！）ではないですか。では本人のペニスはどうかと聞くと、日本では半数以上（54%）の男性が自分のペニスは「亀頭がすべて露出している」と答えました。それに対して、そのように答えたドイツ人はたった1人（！）しかいませんでした。包皮を切除したわけでもないのに「むけている」そのドイツ人は、「自分だけ他人のペニスと違うのはどうしてなんだろう。どうしてそうってしまったのか、以前から誰かに聞いたかった」と逆に質問してきたほどでした。

では、日本の男性で「むけている」という人の場合は、どうしてむけているのでしょうか。そのとき「むけている」と答えた52人の内、32人（62%）は「自然にそうなった」と回答しました。しかし—ここがおもしろいのですが—19人（37%）は、「自分でそうしようと決めて、包皮をむいて亀頭が露出したままになるように訓練した」と答えたのでした。「そうだよな。そういうことするよね、おれたち日本の男性は…」と、思わず手を取って共感したくなるころを、じっとこらえてインタビューを続けたものでした。

こういうセンシティブな問題を対面で質問してどこまで正直な回答がえられたのか…、まったくわかりません。ドイツの場合は「目視」をしているのでいいですが、日本の場合は「見栄」をはって答えた人もいるかもしれません。いつかもっと匿名性の保てる方法で、もっとたくさんの人を対象に調査してやろうと思ったのですが、なかなか機会にめぐまれずにきました。それがとうとう今年になって、ようやくネットを利用した大規模なアンケート調査を実施できることになったのでした。

## 日本人の「むけたまま」率は？ ——2019年のネット調査速報値

今年（2019年）8月、大阪府立大学の研究倫理審査をへたのち、「日本におけるペニスの包皮とケアに

関する調査」という Web 調査を実施しました。24 年前のインタビュー調査を参考に質問項目を作り、何回もプレ・テストを重ね修正を加えた上で、8 月 1 日から 31 日までの 1 か月間インターネット上に公開しました。アンケートへの反響は思いのほか大きく、4,849 人もの方がアクセスしてくれました。18 歳以上の男性で、ペニスのイラストが出てくるアンケート調査に参加することに同意し、最後まで質問に答えてくれた人の回答を有効としました。有効回答は 4,126 名で、そのうち 37 名は外国籍の方でした。

詳しい分析はこれからゆっくりやるとして、日本国籍をもつ 4,089 名についての速報値を伝えましょう。まず、図 1 のイラストを見てください。通常的生活時（勃起していないとき）の大人のペニスの姿を描いたものです。イラストを見ながら、読者のみなさんも自分だったらどう回答すると思うか考えてみてください。

- 一般的な大人のペニスの外見はどれに最も近いと思いますか？
- あなたが理想だと思うペニスの外見はどれに最も近いですか？
- 普段のあなたのペニスの外見はどれに最も近いですか？

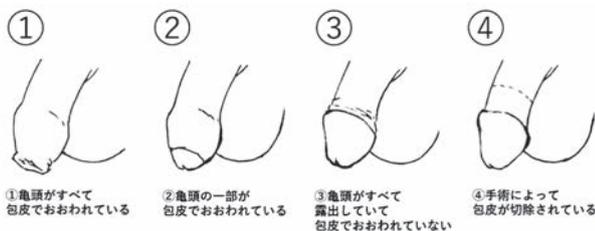


図 1 ネット調査で使用した「通常的生活時（勃起していないとき）のペニスの姿」のイラスト

一般的な大人のペニスは「むけたまま（イラスト③）」だと答えた人は、1995 年の調査では 63% もいたのですが、今回の調査ではずっと少なく 34% でした。「日本人の 7 割は仮性包茎」という言説が広まっていると冒頭で書きましたが、その結果、「大人のペニスはむけているもの」と考える人が減ったということでしょうか。興味深いのは、74% の回答者が「理想的」なペニスは「むけたまま」のペニスだと答えていたことです（1995 年の調査では「理想のペニス」については聞いていません）。

では、回答者の「自分自身のペニス」はどんな外観をしているのでしょうか。これもまた興味深い結果が出ました。イラスト③の「むけたまま」のペニスを選ん

だ人は 22% に過ぎませんでした。1995 年の調査で 54% が「むけたまま」のペニスを選んだのと比べると大きな減少です。「理想のペニスはむけたままのペニス」と考える人が 4 分の 3 もいるのに、実際にそういうペニスをしている人は 4 分の 1 もいないということです。今回の調査では、亀頭が「すべて包皮におおわれている（イラスト①）」と答えた人が 43%、「一部が包皮におおわれている（イラスト②）」と答えた人が 30% で、あわせて 73% の人が自分の亀頭は包皮におおわれていると答えていました。「日本人の 7 割は…」という言葉とよく似た結果が出たわけです。包皮切除の手術を受けている人（イラスト④）は、全体の 4% でした。

さてそれでは肝心の質問です。今回の調査で「むけている」と答えた 903 人（22%）の人たちは、いったいどうして「むけた」のでしょうか。「包皮を切除していないのに、普段から包皮がむけたままになったのはどうしてですか？」という質問への回答を見てみましょう。「とくに何もなかったが、自然にそうなった」と答えた人は 233 人（26%）だったのに対して、「意図的に（わざと）そうなるようにした」という人は 583 人（66%）もいました。なんと、高校生のときの私と同じように「意図的に手を加えた」という人が、「むけている」組の中ではむしろ多数派なんじゃないですか！

そうすると、今度は逆に「とくに何もなかったが、自然にそうなった」という答えの詳細が知りたくなってきます。残念ながら、そのように答えた人たちに今から再度確認する方法はありませんが、「その他（具体的に）」を選んだ人たちの自由記述欄から垣間見られるものがあります。マスターベーションなしセックスをたくさんしていたらむけたという記述が一番多く、お風呂で洗っていたらという人と、医者にかかったことからという人も数人ずついました。日本人の包皮は短くて、大人になると自然にむけたままになる人がいるのか、それとも日本独特の文化的プレッシャーを受けて、無意識のうちに人為的な身体改造をしているだけなのか…、この調査からだけでは、まだ今一つ結論が出ないところではあります。

## 日本の「むくべき・むかないべき」論争

これまで述べてきたことで、人間のペニスは、大人になってからも包皮が龟头をおおっているのが基本形

であることがわかってもらえたでしょうか。その基本形のペニスを「仮性包莖」などと呼んで、「病気の一步手前」であるかのように言うことは、百害あって一利なし。東先生と私はそう考えています。私が高校生のときに体験したような「包莖の不安」は、日本の若者たちの性の悩みごとトップ3（早漏・短小・包莖）の一つだと言われます。さらに恐ろしいことに、最初の二つ（早漏・短小）は、三つ目（包莖）の結果であるようにも言われるのです。日本家族計画協会の電話相談「思春期・FPホットライン」でも、男性からの相談内容は「包莖」(19.6%)が「自慰」(23.3%)に次いで2番目に多いそうです<sup>(4)</sup>。

そんな男性たちの不安が伝わるのでしょうか、小さな男の子を持つお母さんたちも「子どものペニスの包皮のケア」について不安を感じる人がたくさんいると言います。岩室紳也先生（神奈川県厚木市立病院）の推奨する「むきむき体操」がよく知られるようになってきましたが、この体操は、うまくやらないと子どもがいやがって泣いたりもするので、「本当のところ、やった方がいいんだろうか、やらなくてもいいんだろうか」と全国で話題になっているようです。先日は、とうとうNHKの「あさイチ」でも取り上げられたほどでした（2019年9月24日放映）。

同じ番組の中では、むきむき体操は「してもしなくても変わらない」という、石川英二先生（神戸・石川クリニック院長）の意見も紹介されました。石川先生は、「包莖」に関する世界中の文献をわかりやすく紹介した名著『切ってはいけません！—日本人が知らない包莖の真実』（新潮社、2005年）の著者です。石川先生によると、泌尿器科医として20年かけて集めた524例の長期観察データから、むくことを指導した場合と、しなかった場合とで、思春期が到来した後にむけるようになっている率にほとんど差がなかったそうです。どうせむけるようになるのだから、親が子どものペニスのことで悩む必要はない、という考え方です。

私は大学で「セクシュアリティとジェンダー」という科目を教えているので、しばしばこのことを学生たちと話題にします。現在20歳前後の若者たちの中には、すでに「むきむき体操」で育ってきた人たちがいます。「子どものときどう思った？」と聞くと、多くが「めっちゃいやだった」と答えます。「だって、痛いんだもん」とのことです。「で、今はどう思って

る？」と聞くと、「感謝してる。だって、むけるようになったから」と答える人がいます。「でも、何もなくてもむけるようになったと思うよ」と言うと、「うーん、そうか…」と考え込んでしまいます。

はたして、子どものペニスは親がむいてあげるべきでしょうか、放っておいたらいいのでしょうか。乳幼児期に男の子自身が答えを出すことはできません。養育者であっても、自分本人ではなく「他者」のペニスに働きかけるわけですから、後から文句が出ないようによく理解してから決めたいものです。その判断材料として、知っていなければいけないことなことがあると思います。それは、「むく・むかない」の論争は、純粋に医学的なテーマというよりも、これまで見てきたような日本独特の身体観に基づいた社会・文化的なテーマなのだと思います。つまり、一見ペニスの保健衛生の方法をめぐる論争のようであるが、実は、子どもが将来「包莖の悩み」を抱かないようにするにはどうしたら一番いいのか、ということを中心とした論争なのだと思います。岩室先生自身、「むきむき体操」を説明した冊子の中で、「イマドキ男子は思春期に仲間から性の情報をもらわない時代になっています。他人に相談するのも苦手で、気が付けばとんでもない広告にだまされることも少なくありません」と述べて、「むきむき体操」による包莖の悩みの予防を訴えています<sup>(5)</sup>。

「むく・むかない」で悩むお母さんたちは、しばしば「夫は役に立たない」とぼやきます。夫も包皮のことをよくわかっていない、という意味だったり、夫婦の間でペニスのことを直視したことがない（ので夫がどうなっているのか知らない）という意味だったりします。親にとって性をタブーとする文化が前提では、子どものことをどうしたらいいかわからないのも当然でしょう。「大人のペニスはみんな亀頭が露出しているもの」という日本のペニス観は、歴史のどこかで生まれた誤解であることは間違いないと思います。何の説明もなく押し付けられる、たちの悪い誤解です。子どもの包皮のケアをどうするのかは、そんな誤解を前提とせずに選択できるようにあってほしいものです。

### 今後の研究の方向性： 海外の研究者たちとつながることの意味

東先生と私がすすめる研究は、8月末に締め切った

ばかりの Web 調査の集計をもとに、今後、日本と海外における包皮のケアの実践を比較していきたいと考えています。既に述べたように、包皮をめぐる論争は、日本では「むくか、むかないか」での議論であるのに対して、海外では「切るか、切らないか」が焦点になっています。その点、日本は「切らない」国の一つであるようであり、龟头を露出させたままにするという点では、「切る」国と共通するところも多々あります。海外で「切らない」文化の国では、包皮のケアをどうしているのでしょうか。海外で「切る」文化の国では、龟头のケアをどうしているのでしょうか。興味のあるところですよ。

世界には、信仰や部族への所属の証として包皮を切除する「割礼」の文化が多々あります。また、米国のように医療者が乳児の包皮切除を推奨する国もあります。米国全体の産科病院での新生児包皮切除実施率は、60%近く（2010年に58.3%）にのぼります。それでも近年だいぶ減った上での値だそうです<sup>(6)</sup>。その米国から駐留軍経由で強く影響を受ける韓国でも、兵役前（思春期前後）に包皮切除を済ませる男性が大多数です。西暦2000年前後のピーク時には、16歳～29歳の男性の84%が切除済みで、さらなる7%が「今後包皮を切除したい」と答えていました<sup>(7)</sup>。別のグループの研究でも、20歳の男性の78.0%が切除済み、さらなる11.5%が「今後包皮を切除したい」と答えています<sup>(8)</sup>。WHO（世界保健機関）は、世界の男性の30%から33%が包皮切除手術を受けていると試算しています<sup>(9)</sup>。陰茎がんや（パートナー女性の）子宮頸がん、HIVをはじめとする性感染症、尿路感染症や龟头包皮炎症などの予防を理由に、「すべての子どもに包皮切除を」と主張する声もあります。「包皮切除はHIVの感染リスクを低減する」という研究<sup>(10)</sup>が出て以来、WHOは、主にアフリカで大人の包皮切除を大規模に進めています。

かたや包皮を目の敵にする文化や社会があるかと思うと、包皮を守ることをライフワークとしている人たちもいます。宗教・文化・医療慣行上の包皮切除に真っ向から立ち向かう運動が盛り上がっているのです。包皮切除は、当人の体に生涯残る変更を加える行為です。一度包皮を切り取ってしまったら、龟头は常にむき出しになり、湿潤を失ってしまい角質化していきます。切り取った包皮には、実は性的な快感にとって

重要な感覚小体が豊富に配置されているという有名な研究もあります<sup>(11)</sup>。医療事故でペニスを損傷させてしまうことも、珍しいとはいえ起きています<sup>(12)</sup>。そんなリスクを、親の判断で子どもに強要してはいけません。治療目的でもなく包皮切除をおこなうことは人権の侵害だ、と主張する人たちのことをインタクティヴィスト（Intactivist）といいます。「損なわれていない」という意味の“intact”という言葉と、アクティビスト（活動家）という言葉をかけあわせたものです。

今年の4月、イギリスでインタクティヴィストの研究集会が開かれたので、私たち二人も参加してきました。集会にはイギリスだけでなく、デンマークやフィンランド、ドイツ、米国、トルコなどから研究者やアクティビストが200名ほど参加して、各国の法律と乳幼児の（つまり、インフォームド・コンセントを伴わない）包皮切除手術の関係について熱く議論していました。自分自身が不本意に包皮を切除され、ペニスの感覚と自尊感情が著しく損なわれた、という当事者もいました。ドイツ人の青年は、ほとんど残っていない包皮を専用の器具で



図2 包皮を切除してしまった人の龟头を保護するための「人工包皮」（商品名はSenSlip）

ひっぱって、1年半かけてある程度の長さまで伸ばしてきたそうです。龟头を保護するために、コンドームにも似た帽子も使っているそうです（このような商品が市販されているということも初めて知りました）。

そんな運動が、特にヨーロッパの北側の国々では広く支持されてきています。昨年、「インタクト・デンマーク」というグループは、市民が国会審議を要求するために必要な5万人の署名を集め、医療上の理由がない包皮切除に18歳という年齢制限をかける法案を提出するにいたったそうです。女性性器切除（FGM/FGC）が非人道的行為であることには国際的なコンセンサスがあるのに、なぜ男児の性器切除は認められるのだ！ という訴えが、理を重んじる北欧圏では特に説得力があるようです。すべての形態のFGM/FGCを禁じる法律が、アフリカからの移民を受け入れる

国々で成立していますが、アイスランドでは、そういった法律から「女児」という言葉ははずして男女ともに性器切除を禁じる案が現在検討されているそうです。

そのような状況を強く警戒しているのが、ユダヤ系やイスラム系のコミュニティです。割礼禁止を阻止するためのロビー活動も盛んです。デンマークでもアイスランドでも、法案の審議を進めること自体が難しいようです。ドイツでは、2012年にケルンの地方裁判所が未成年男性への割礼を違法とする判決を出して世界を驚かせました。国内のユダヤ人コミュニティとイスラエル政府はドイツ政府に強くプレッシャーをかけ、すぐにメルケル首相は宗教上の割礼を擁護するコメントを出しました。同じ年の12月には、「医学的知識のあるもの」がおこなう限り宗教上の割礼は認められると明記した法律が速攻で成立しました。しかし、ユダヤ人の割礼文化は盤石なのかというと、改革派ユダヤ教徒の中には包皮切除に代わる宗教儀礼を提唱する動きがあるそうです。男性の体の先端をおおうこの小さな皮膚が、世界の最先端の議論を呼んでもいるのです。

「包茎の悩み」という日本独特の極めてローカルな問題を、私たちはグローバルな議論の場で紹介していきたいと考えています。視野を世界に広げることで、「アハ！」という気付きを日本に持ち帰ることができると感じるからです。その意味でも、1995年のパイロット・スタディで試みたような国際比較調査を、もっと大きな規模で、匿名性の高い形で実現したいものです。

日本のローカルな問題を議論することは、海外の関係者にとっても新たな気付きをもたらすのではないかと感じています。韓国では西暦2000年前後が包皮切除ブームのピークだったと書きましたが、2012年発表の研究では14歳～29歳の切除率は75.8%まで下がり、しかも切っている人のうち「過去10年以内に手術した」という人は4人に1人しかいなかったとのことです<sup>(13)</sup>。包皮切除反対の立場で啓発活動を続ける韓国のグループにその理由をたずねると、「韓国の男性たちはアメリカ以外の国々では切らないということを知らなかった。例えば日本では切らないのだ、という知識は若者たちの意識を変える上で重要だった」と話してくれました<sup>(14)</sup>。

しかしそれにしても、この小さな皮膚は、どうしてここまで人の感情を高ぶらせるのでしょうか。「むく・むかない」、「切る・切らない」は、どこの国でも純粹

に衛生や健康の問題ではなく、社会・文化と人間の性の関係性の問題であります。私たちは「身体の自律」、つまり自分の体のことは自分で決める、という考え方に関心があってこの研究をしているのですが、こと「性」がテーマとなると、文化や社会が何ともあれこれ指示を出したがり、個々の人間が何と無口で、「見ざる聞かざる言わざる」に徹することか！包皮をめぐる論争も、自分の性のことを自分で決められるためには何が必要か？ そういう目で見るとべきテーマではないでしょうか。

(注)

- (1) Pérez, G. M., Tomas Aznar, C., & Bagnol, B. (2014). Labia minora elongation and its implications on the health of women: A systematic review. *International Journal of Sexual Health*, 26(3), 155-171. ほか多数。
- (2) 下欄外アドレス参照
- (3) 福井次矢(監修)『家庭の医学』(第六版) 保健同人社、2008年
- (4) 日本家族計画協会「平成30年間の歩みと2018年度事業実績」『家族と健康』第783号2019年6月1日発行  
<http://www.jfpa.or.jp/paper/KK201906.pdf>
- (5) 岩室紳也『おちんちん』日本家族計画協会、1999年/2018年。
- (6) Owings, M., Uddin, S., & Williams, S. (2013). Trends in circumcision for male newborns in US hospitals: 1979-2010. National Center for Health Statistics website. [http://www.cdc.gov/nchs/data/hestat/circumcision\\_2013/circumcision\\_2013.pdf](http://www.cdc.gov/nchs/data/hestat/circumcision_2013/circumcision_2013.pdf). Accessed September, 5.
- (7) Kim, D., Lee, J. Y., & Pang, M. G. (1999). Male circumcision: a South Korean perspective. *BJU international*, 83(s 1), 28-33.
- (8) Ku, J. H., Kim, M. E., Lee, N. K., & Park, Y. H. (2003). Circumcision practice patterns in South Korea: community based survey. *Sexually transmitted infections*, 79(1), 65-67.
- (9) Weiss, H., Polonsky, J., Bailey, R., Hankins, C., Halperin, D., & Schmid, G. (2007). Male circumcision: global trends and determinants of prevalence, safety and acceptability. World Health Organization and the Joint United Nations Programme on HIV/AIDS (UNAIDS).
- (10) Auvert, B., Taljaard, D., Lagarde, E., Sobngwi-Tambekou, J., Sitta, R., & Puren, A. (2005). Randomized, controlled intervention trial of male circumcision for reduction of HIV infection risk: the ANRS 1265 Trial. *PLoS medicine*, 2(11), e298.
- (11) Taylor, J. R., Lockwood, A. P., & Taylor, A. J. (1996). The prepuce: specialized mucosa of the penis and its loss to circumcision. *British journal of urology*, 77(2), 291-295.
- (12) Weiss, H. A., Larke, N., Halperin, D., & Schenker, I. (2010). Complications of circumcision in male neonates, infants and children: a systematic review. *BMC urology*, 10(1), 2.
- (13) Kim, D., Koo, S. A., & Pang, M. G. (2012). Decline in male circumcision in South Korea. *BMC Public Health*, 12(1), 1067.
- (14) “Society for Circumcision Information”のメンバーに対するインフォーマル・インタビューより(2019年9月17日実施)。このグループは、注4と注8の論文を書いた研究者/教育者たちを中心とし、治療目的でない包皮切除が不要であることについての啓発活動を20年近く続けている。

## ◎東京性教育研修セミナー 2019 夏／第10回世界性の健康デー in 東京・報告

## 性の健康への架け橋：あらゆる人に性教育を！

9月8日(日曜日)第10回目となる「世界性の健康デー」が東京・四谷の持田製薬株式会社ルークホールで開催された。午前10時から講演「第8回青少年の性行動全国調査からみえてくるもの」、11時からパネル討論「若者は草食化などしていない!?!」、午後1時からシンポジウム「男性への性教育から考えるすべての人の性の健康」をテーマに催された。3階の大会議室等で性に関する活動をしている民間団体のブース出展が行われた。出展者、スタッフを含めた参加者は約80人であった。

実行委員長を務めたLink-R代表・柳田正芳氏の開会挨拶後、プログラムが始まった。最初のプログラム、講演「第8回青少年の性行動全国調査からみえてくるもの」は、東北学院大学教養学部(教育社会学)教授の片瀬一男氏の予定であったが、片瀬氏急病のため、日本性教育協会の中山博邦事務局長が報告を行った。

## ◆パネル討論

## 「若者は草食化などしていない!?!」

中山博邦事務局長の報告後、HIVエイズの啓発支援団体「ふれいす東京」の設立者(現在理事)であり、ハワイ大学でセクソロジーを学び、Sexual Healthを推進する活動を現在も積極的に続けている池上千寿子氏をモデレーターに、「若者は草食化などしていない!?!」をテーマにパネル討論が行われた。

パネリストは、埼玉大学大学院教育学研究科(養護教諭の免許を取得している)の永井美乃理さん、同じく埼玉大学の大学院教育学研究科で、将来養護教諭として性教育をすることを目指しているという平澤七海さん、國學院大学で日本文学を専攻しているという柴田花笑さん、大学で主にセクシュアリティやジェンダーについて勉強しているという一ツ橋大学社会学部の杉山貴郁さん、東京大学大学院総合文化研究科の片桐巧基さんの5名。

それぞれ自己紹介をかねて、今回のパネル討論に参加した経緯や青少年の性行動全国調査の報告の感想などが話された。その中には、「全身脱毛したら、誰と



午前11時から始まったパネル討論

も関係することに抵抗がなくなった」という女性友達の告白話などもあり、パネル討論は冒頭から興味津々で始まった。

自分の若者時代と比べて、今の若者には出会いの機会、方法は計り知れないくらい多い、という池上氏の問いかけに対して、「確かにSNSや情報が豊かになっているが、面倒くさいと思っている若者が増えている。性以外に興味関心の選択肢が増えていることも、性に関して不活発化の理由であると思う」という意見や「不活発化しているとは思わないが、確かに恋愛に距離を置いている友達は、男女にかかわらず少なからずいる」というパネラーからの発言もあった。

男子では、そもそも出会いのチャンスは、自分で積極的に動かないと生まれない、という発言もあって、青少年の性行動全国調査からみえてくる「草食化」というより、「分極化」は確実に進んでいるという印象のパネル討論であった。



展示企画の一部

## ◆シンポジウム

### 男性への性教育から考えるすべての人の性の健康

昼食休憩をはさんで、「男性への性教育から考えるすべての人の性の健康」をテーマにシンポジウムが行われた。

シンポジストは、それぞれ違った分野のお三方、モデレーターは柳田正芳氏。

男性の包茎の問題に興味ある発言をされたのが、鹿児島市の玉昌会高田病院泌尿器科科長の内田洋介氏。内田氏は、男性生殖器疾患、性機能障害、トランスジェンダー医療の専門家で、中高生への性教育講演や、幼児の保護者へ「おちんちん講座」などを行っている。

現在、包茎の歴史を研究中というシンポジストは、東京経済大学准教授の澁谷知美氏。澁谷氏は、社会学、教育社会学、ジェンダー論を専門として、『日本の童貞』や『立身出世と下半身 男子学生の性的身体の管理の歴史』『平成オトコ塾 悩める男子のための全6章』などユニークな研究著書がある。

もう一人のパネリストは、編集ライターの赤谷まりえ氏。得意分野は、性（主にセックスワーク関連）および食の取材で、直近の共同企画・執筆に『首都圏バリアフリーなグルメガイド』がある赤谷氏は、カリフォルニア州立大学ソノマ校で女性学、ジェンダー研究を専攻してきた。

シンポジウムは、内田氏が泌尿器医になった動機の話から始まった。その動機は、解剖実習で見た男性生殖器の形態であったという。

二人目のシンポジストの澁谷氏は、男性の性に興味を持ち、男性の性を研究し始めた経緯を、中学生のときの電車の中での大人の行動から説き起こされた。

三人目のシンポジストの赤谷氏は、編集ライターという仕事の内容と現在の活動を紹介し、メインの仕事は、人間の二大欲求の「性と食」とであると話された。



午後1時からのシンポジウム

シンポジウムのメインテーマはいつしか、男性性器と包茎となった。

その中でも、包茎手術の弊害や誤解についての教育の重要性、仮性包茎をどのように対処すればよいのかなどの議論もかわされた。

会場からは、次の様な質問、感想がよせられた。

(抜粋・文責編集部)

- 男性は性器の大きさ、特に大きいと自慢しますが、これはなぜですか？
- 女性視点から見たペニスで思い出したのですが、女の子は包茎をみる機会は少ないかもしれない。私の経験では、なてる形のペニスを見るのがほぼありません。何故ならSEXの場面になると相手はすでに臨戦体制だからです。私はちんちんの真の姿を知らない。
- 男性ですが、風俗の講師をしています。女性キャストの話をおきくと、お客のほとんどが仮性包茎です。シャワーの時にむいて洗うよう指導しています。プレーが終わり、仲良くなったら、「トイレのたびに皮をむくといいよ」と明るくアドバイスすると、男性はむくことが習慣になります。女の子の中には「仮性包茎=不潔」というイメージは根付いてますね！

シンポジウム終了後、スピーカーズコーナーでは「世界性の健康デー10周年と、令和の性の健康」をテーマに、柳田氏と参加者とのディスカッションが行われた。

主催：世界性の健康デー東京大会実行員会

協賛：日本性教育協会

後援：日本性科学会、一般社団法人日本思春期学会、一般社団法人日本性機能学会、一般社団法人日本性感染症学会、公益財団法人性の健康医学財団、一般社団法人日本家族計画協会、公益財団法人ジョイセフ。

会場協力：持田製薬株式会社

[千葉県香取市立山田中学校] (上)

## 授業と外部講師による講演会を連動させて行う 思春期健康教育

香取市は千葉県北東部に位置し、成田空港から15キロ圏内に位置する人口約8万人のまち。自然に恵まれ、香取神宮をはじめとする国宝や重要文化財、歴史的な建造物などが多くあることでも知られている。香取市立山田中学校は、その香取市の東部、緑に囲まれた自然豊かな高台に位置している。今回は山田中学校が取り組む思春期教育を紹介する。

### 体育科教諭と養護教諭がTTで授業を行う

中学校の保健体育科の学習指導要領の保健分野では、1年で「心身の発達と心の健康」を、3年では「健康な生活と病気の予防」を指導する。

山田中学校においては、1年生は「心身の発達と心の健康」、「生命を生み出す体への成熟」、「思春期の心の変化の対応」の単元を、3年生では「感染症の原因」、「性感染症とその予防」、「エイズとその予防」の単元を男女共習授業とし、2名の保健体育科教諭と養護教諭が3人の連携でチームティーチング(TT)を行っているという。

香取雅子養護教諭は「保健体育科教諭と養護教諭がTTを行うことで、それぞれの専門性を活かした授業を行うことができます」とTTのメリットを語る。

男女共習についても「ふだん体育の授業は男女別習の授業を行っていますが、思春期の心と体の発達や性に関する授業は、男女いっしょに学ぶことによって、男女間の違いを感じてもらえます。

授業の中で行う、グループ討議では、男子も女子もお互いを尊重する意見もだされるようになりました」とその成果を語ってくれた。

### 専門医師による思春期講演会

もう1つの取り組みは3年生を対象に行う「学校行事における思春期健康教育」である。

香取市では、思春期保健体制の向上を図ることを目的とし、平成17年度より児童生徒を対象とした思春期講演会を開催している。

香取市立山田中学校  
校長 馬場 芳勝  
生徒数 191名  
教職員数 23名

(2019年4月現在)

「本校でも、毎年3年生を対象に医師や助産師を講師として迎え、継続して思春期講演会を実施しています」と香取養護教諭は語る。

以前は助産師さんを講師に招くこともあったそうだが、ここ数年は、旭中央病院泌尿器科の医師を講師に招き『尊い命 性感染症の予防』をテーマにした、思春期講演会を行っているという。

このように山田中学校の3学年における思春期健康教育は、チームティーチングによる保健体育の授業と思春期講演会を連動させて実施していることが大きな特徴でもある。

### 正しくきちんと理解させる

性に対する興味・関心は個人差が大きい。また生徒の生活環境によっても異なってくる。

厚生労働省の発表では、18歳未満の児童がいる世帯のうち、核家族世帯が約8割以上占めているといわれているが、山田中学校においては、祖父母が同居している家庭や、祖父母が近くに住んでいる家庭が多い。

「家族からたくさんの愛情を受けて育っているせいか、本校の生徒は落ち着いた生活を送っており、誰と誰が付き合っているという声が聞こえてきても、これまで生徒たちが性に関する大きなトラブルをおこすことはありませんでした。また、たとえば、今は二次元

学習指導案（抜粋）

保健学習「健康な生活と疾病の予防——性感染症とその予防」（3年）

	学習活動と内容	指導・支援 ☆評価	用具・資料
導入 10分	(1) 導入 ・性感染症について質問する (T1 = 体育教師) ①エイズ ②りん菌感染症 ③性器クラミジア感染症 ④梅毒 ⑤尖圭コンジローマ ⑥性器ヘルペスウイルス感染症	・黒板に①～⑥までの性感染症の名前を書いた紙を貼り、知っていると挙手した生徒の人数を書く (T2)。	掲示物 パソコン
展開 30分	学習課題*性感染症の特徴と感染経路を知り、その予防法を理解できるようにしよう。  (2) 性感染症について知る ・性感染症についての質問をする (T1 = 体育教師)  問：性器クラミジア感染症という性感染症は、どの年代に多く発症していると思いますか？ ・挙手して答えさせる ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ・質問の答えを説明する (T3 = 養護教諭)  問：性感染症にはどんなイメージがありますか？ ・ワークシートに記入させ、発表させる。 ・質問の答えを説明する (T3 = 養護教諭)  問：性感染症がなかなか治らないのはなぜでしょう？ ・グループごとに話し合っ、ワークシートに記入し、発表させる (T1 = 体育教師)。 ・質問の答えを説明する (T3 = 養護教諭)  問：現在、性感染症は増えていると思いますか？ ・挙手して答えさせる (T1) ・データを示しながら説明する (T3 = 養護教諭)  問：性感染症を予防するためにはどうしたらよいと思いますか？ ・グループごとに話し合っ、ワークシートに記入し、発表させる (T1)。 ・質問の答えを説明する (T3 = 養護教諭)	・アンケート結果から、性感染症に関する意識が低いことを知らせ、しっかりと知識を身につけ、今後の生活に生かせるようにする。  ・20代が全体の半数を占めていて、2番目に多いのが30代、3番目が10代であることを説明する。 ・性器クラミジア感染症について。男性と女性の症状の特徴についても説明する。  ・はじめに挙げた性感染症の病名からイメージできることを記入するよう指示する。 ・感染経路、性感染症の特徴などについて説明する。  ・人の心理側面から考えるよう助言する。 ・机間巡視を行い、リーダーを中心に話し合いが進められるようにする (T1、T2、T3) ・症状の発現や人の心理状態などの理由で他の感染症と差異があることを説明する。 ・ピンポン感染についても触れる。 ・感染者の増加と低年齢化が問題となっており、正しい知識と予防法を身につけることが大切であることを理解させる。 ・机間巡視を行い、リーダーを中心に話し合いが進められるようにする (T1、T2、T3)  ☆性感染症の予防について、自分が考えていることを言ったり、書き出したりすることができる。 【思考・判断】 ・性的接触をしないこと、コンドームを正しくつかうことの大さなど予防法を説明する。	掲示物 パソコン  掲示物 ワークシート パソコン  掲示物 ワークシート  パソコン  掲示物 パソコン  掲示物 ワークシート パソコン
まとめ 10分	(3) 本時のまとめ ・本時の学習を振り返り、まとめをする ・本時でわかったことをワークシートにまとめ、発表させる。	・自分がどのような行動をとるべきか、まとめさせる。	ワークシート

体育科教諭2人（メインの進行役、サポート役）と養護教諭の3人でチームティーチングを行う

のアニメの世界に夢中で、性に関してはまったく自分とは関係がないと思っている子もいます。本校の生徒は都市部の子どもたちに比べると総じて性に関して幼いように感じられます」と香取養護教諭は語る。

思春期講演会で、いきなり医師から性感染症の話がされると戸惑う子どももいることが想定される。

そのことから、事前に保健体育の授業で性に関する正しい知識を指導して、授業から期間をおかずに専門医による思春期講演会を実施しているという。

「授業で学び、その後医師の話聞くことでより深い学びにつながっていると思います」と香取養護教諭。

性感染症について学ぶことで、子どもたちは性の問題は自分の将来にもかかわってくる身近な問題である

ことがわかってくる。なかには「性感染症は死に至るとても恐ろしい病気だ」というとらえ方をしてしまう生徒もいるが、保健体育の授業と思春期講演会で正しい知識を得ることで、性感染症は決して怖い病気ではないことを理解するという。

香取養護教諭は「医師が専門家の立場から避妊の話をしてくださることはとても有意義だと感じています」と語る。

性に関する思春期健康教育の取り組みは、生徒たちの心にどのように届いているのだろうか。

今回は、授業のすすめ方や思春期講演会における生徒たちの感想を紹介する。

（取材・文 エム・シー・プレス中出三重）

# 思いこみ の めがね

シゲせんせーのポジティブライフ

大学3年生。3年生になっても授業数が多く、私は1日のほとんどを大学で過ごしていました。サークルにも所属し、子どもたちともかかわっていました。夏は菅平や野尻湖で子どもたちと野外キャンプ、春は3月の妙高高原のスキー場でスキーキャンプ。それらのキャンプには、知的障害や発達の偏りをもっている子がいました。いろいろな子どもたちがキャンプで過ごすその時間は、私が初めて「共生社会」を意識したときでもあります。現在LGBTの活動をしている私にとって、このときの体験は強く心に残っています。昔から「マイノリティとマジョリティ」「インクルージョン」について考えるきっかけがあったのだと気づきました。

その一方で、恋愛やパートナーについても考えることが多くなってきました。女の子との付き合いが上手くいかず、自身がゲイであることをどう受け止

めるか考えていた時期でもありました。とはいえ、何も情報をもっていない。ゲイの人に出会ったことがない。大学を見回しても見えない、わからない。そんな状況を打開してくれたのが「ゲイ雑誌」と「ネット掲示板」でした。

ちょうどその頃、地元の書店でゲイ雑誌を見つけました。すぐに買うことはできませんでしたが、何日も迷って勇気を振り絞ってようやく買うことができました。雑誌の中にはいろいろな情報がありました。今まで自分が知ることのなかった知識、見たくても見ることができなかった描写、コラムの中から伝わるライフストーリー。穴が開くくらい読んでいたと思います。ゲイ雑誌とのつながりは、自分の人生の一つの光でした。ようやく、その世界とつながることができたのです。

雑誌の中には文通欄もあり、よく利用しました。相手のプロフィールを吟味して手紙を書き、自分の写真も同封しました。どんな写真だったら相手から気に入ってもらえるか考え、時にはサークルの写真を入れた

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

こともありました（もちろん自分以外の人は切り取って）。1週間くらい経つと、見慣れない名前、見慣れない住所が書かれた封筒が届きます。家族がその手紙を先に受け取らないよう、郵便配達の方が来るのを待ち構えていたこともありました。

手紙のやり取りは、興味深いものでした。今まで自分のことしかわからなかったのに、手紙を通して自分以外のゲイの人の思いや生活が伝わってきました。同じ境遇の人と、苦悩や喜びを「共有」することができました。同じところがあったり、違うところがあったり。そんな当たり前のことを確認していました。

大学4年生くらいになると、私もインターネットを使えるようになりました。ゲイ専用のネット掲示板も使うようになりました。手紙に比べて、手間も少なく、より簡単に人と出会えるようになりました。大学

ではゼミが始まり、研究室にこもることも多くなりました。小学校での教育実習や教員採用試験の準備もあり多忙を極めていましたが、ネット掲示板を見ない日はなかったです。

それまで人と出会えなかった時間を取り返すかのように、必死だった部分もあったかもしれません。

掲示板を通して、初めて人と会うこともできました。出会いの約束をしてから、緊張の毎日でした。「会っているいろと話をしたい」「タイプの人だといいな」「でも怖くて悪人だったらどうしよう」とぐるぐる考えていました。そして当日、地元近くの駅に現れたのは、自分より年上の爽やかでカッコいい社会人の方でした。一緒に焼肉ランチをしながら、いろいろな話をしました。生き立ち、仕事、恋愛、生活。そのどれも新鮮で、自分のこれからの参考になるものばかりでした。パズルのピースを一つずつ埋めていくかのように、少しずつわかってきました。自分にこれから、どういう可能性があるのか。人生の中で、何ができて何ができそうにないのか。そして自分は、どう生きていきたいのか。

サークルや教育実習だけでは気づけなかったことに気づくことができた。ゲイの人との出会いは、私にとって大きなものでした。

## 第19回

### 「初めて自分以外のゲイと会う」 大学時代後半

多様な性  
のゆくえ

One side/No side [30]

## 多様性の中の一人一人

すっかり忘れてしまいそうだが、今年の夏は暑かった。7月末まで梅雨が長引き、肌寒さを感じる日が続いたせいもあって、その後の恐るべき暑さはこたえた。8月17日も体感的な消耗度が激しく、来年はこの暑さの中でオリンピックが開かれるのかと、いささかげんなりしながら、上野動物園の隣にある東京都美術館を訪れた。照り返しがきつい。地上から美術館地下1階にあるロビー入口前の広場へ。炎天下の屋外エスカレーターでしずしずと下りる間は、グリルの中でじっくり焼きあげられるローストチキンの心境になる。

美術館ロビー階では8月16日から20日まで（19日は休館）、TURN フェス5『Pathways 身のゆくみち』という催しが開かれていた。

チラシによると TURN は『障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクト』である。休館日を除く4日間のフェスティバルは展示、ワークショップ、パフォーマンスなど様々なプログラムが繰り広げられた。2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の公認文化オリンピックアードでもあるという。

勝つことよりも大切な意義を見出すべく、17日午後3時から始まる『The のど自慢 YES！FUTURE 一性について語ろうー』の会場を訪ねた。

プログラムを企画し、司会も務めたマダム・ボンジュール・ジャンジは、様々な衣装で登場するドラッグクィーンのパフォーマンスアーティストであり、新宿二丁目のコミュニティセンター akta で性的少数者の支援や HIV/エイズ・性感染症の予防啓発に取り組んでいる。

その活動の一つ『Living Together のど自慢』は、HIV 陽性者の手記をゲストが読み、その感想を語ったあと、自選の歌をカラオケで披露するイベントで、私も実は一度、出演したことがある。名乗り出ることのできない HIV 陽性者の思いを第三者に伝える。その行為とカラオケの落差が、喧騒の中の肅然ともいふべき雰囲気を生み出す。司会のジャンジさんによる掛け

合いの妙があって初めて成立する不思議な体験だった。

The のど自慢では出演者が自らの性にまつわる話をし、歌を披露する。最初の出演者は「女装なんでも屋として働いたただのおじさん」と自己紹介した。あえてカテゴリーで分ければトランスジェンダーなのかもしれないが、「私は何なのかは、私もわからない」と語る。ドラッグクィーンのドラッグは「引きずる」の意味。性の境界をドラッグするあいまいな人間も存在することを知ってほしいので、何者ですかと聞かれば「派手な女装のおじさん」と答えるという。

二番目の方は、ろう者の手話講師で、パートナーが手話を音声に通訳するかたちで話が進められた。トランスジェンダー男性として女性パートナーと世田谷区のパートナー証明を受けているという。

歌はどうなるのかと黙っていたら、パートナーと並んで手話で『翼をください』を歌い、客席がそれに唱和した。カラオケは声に出して歌うものであり、人が歌っている時にはあまり熱心に聴かない。おじさんのそんな思い込みを覆す固定観念の転換と一体感が会場に生まれたように思う。

血友病治療の血液製剤にウイルスが混入していたため HIV に感染した男性は「みんなの普通がみんなの人生であるように、僕の普通は僕の体だから、僕はこの体で人生を最大限に生きていくにはどうしたらいいのかを考え続けてきた」と語った。彼が歌ったのは、ゆずの『栄光の架け橋』だった。

4番目の女性カップルは子供を持つことを望んでいる。一人が小学生の自分に宛てた手紙を読んで、少女が成長過程で直面する様々な困難を乗り越えるよう励まし、パートナーが中島みゆきの『誕生』を歌った。

最後にジャンジさんは「多様性の中の一人一人は本当に一人一人」と語った。その通りだと思う。できれば来年の夏までに何回か、The のど自慢を開ければ、酷暑のオリンピック・パラリンピックを柔軟な発想で乗り切るアイデアも生まれてくるのではないかな。そんな妙なオチをつけたくなるイベントでもあった。

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### 当たり前の事を思い起こしてくれる

『ゲイ風俗のもちぎさん』というコミックをご存知だろうか。“売り専”と呼ばれるゲイ風俗の経験をコミック（エッセイ）に描いた作品で、はじめ作者のツイッターで人口に膾炙し、大手出版社が単行本化、そして現在、異例のヒットを記録している。男性同性愛それも性風俗をテーマにした作品が、一般マーケットで爆発的に売れる現象は、非常に興味深い。

主人公のもちぎさん（作者）は、父親が自死した母子家庭に育ち、母親からも虐待ともいえる仕打ちを受け、高校の卒業式を待たずして家を出た。そして、たどり着いた新宿二丁目のゲイ風俗で働くことになる。それは有り体にいって、男性客を相手にした売春。この本は、そこでの同僚や客との関係を、ユーモアをまじえて描いている。

読みはじめるとすぐに、本書がマイノリティ以外にも支持される理由がわかってくる。まず、独特の語り口調や、他者へのあたたかい眼差し、そして少々拙い絵柄が、なんとも心を癒してくれるのだ。LGBTに関する啓蒙書はあまたあるけれど、これほど気負いなく自身を語ってるものはないし、なにより性を語る姿勢が、「教育」や「啓蒙」とは異なり、えらそうではない。

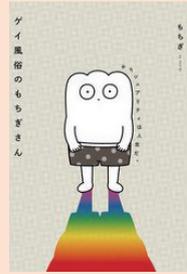
例えば、客とコンドームを使わないセックスをしていると悪評が立っている同僚を描いたエピソード。

「ナマで一回やれば2日出勤した分くらい多めにもらえるからなあ…（略）そんな長生きするつもりなし！ ていうかいいでしょ俺の勝手じゃん」

と居直る同僚に対し、もちぎさんは、

「あたいらはみんな人間を売ってるわけじゃない…だから自分の価値を下げる必要なんてないの」と反論する。

そして、相手の行動を非難するだけでなく、その背景にある気持ちに寄り添う。



### ゲイ風俗のもちぎさん セクシュアリティは人生だ。

もちぎ著  
KADOKAWA  
定価 1000 円+税

「（略）自分への自信のなさから《若さやカラダを失ったらどう稼げばいいか》がわからなくて目先の収入にだけ手が伸びてしまってる」んだよ、と。彼の心の傷を手当てするような語り、自分がただの“穴”でしかないんだと卑下していた同僚も、心が落ち着く……。

きっと「同世代の同僚同士」という微妙な距離感がいいのだ。先生や親にいわれるようなウザさはないし、学校の友だちにある同調圧力や、センシティブな感情も介在しにくい。このあたりが、本書が一般の若者の琴線にも触れた理由なのではないか。自身ギリギリの生活のなかで光明を見出そうともがいているもちぎさんの言葉は、自分に価値を見出せず、自暴自棄になったり自傷的になっている人々にとって、性教育の本を何十冊読むより効果抜群だ！

他のエピソードも胸に染みる。見た目ばかりが評価されて、中身をちゃんと理解してもらえない人気店員や、多少モテても自分が取り立てて個性がないことに悩んでいる先輩…などなどが登場し、読者は彼らを自分の姿に重ね合わせることになる。そう、そこにある生き難さは今日、ゲイやセックスワーカーだけでなく、多くの人たちにとっても共通するテーマなのだ。それに対して、むしろゲイ風俗という下から目線で語りかけるところに、性をあつかったいままでの書籍にはない独特の魅力があるのだろう。

昨今、セクシュアリティやジェンダーは論文や学者から学ぶものだという勘違いがあるが、本来、性が人間の経験そのものだとすることを鑑みれば、漫画からだってセックスワーカーからだって、本質的な問題を学ぶことはできる。という当たり前の事実を思い起こしてくれる好著だ。

あるいは、セックスワークを、差別と搾取の構図からしか捉えられない向きにも、ぜひ読んでほしい。当事者の気持ちの機微や、現場のリアルが真摯に伝わってくる。  
(作家 伏見憲明)

▶▶ 11月23日(土・祝日) 14:00～16:40 ◀◀

## JASE 性教育研修セミナー 2019 in 青森

### 「若者の性」をめぐる不活発化、セックスレス、性的被害 ～「青少年の性行動全国調査」にみる若者像とこれからの性教育～

- 内容**
- 14:00～14:50 講演① 「性行動全国調査」結果の趨勢と性的被害の動向  
(弘前大学人文社会科学部教授 羽瀧一代)
  - 15:00～15:50 講演② 国内外の教科書等からみえてくる日本の性教育の課題と可能性  
(女子栄養大学非常勤講師 茂木輝順)
  - 16:00～16:40 Q & A・ディスカッション  
(モデレーター・北東北性教育研修セミナー共同代表 岡田実穂)

**会場** 青森市総合福祉センター大集会室(青森市中央3-16-1)

**参加費・問い合わせ先等**

主催／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 共催／北東北性教育研修セミナー実行委員会  
定員・参加費／80名・無料 対象／教育、保健、看護、医療関係者、学生、「性」「性教育」「セクソロジー」に関心のある方  
申込み先／JASEのウェブサイトの申込みページ

<https://www.jase.faje.or.jp/support/jasstokyo.html#s1911aomori>  
のフォームからお申し込みください。



▶▶ 11月30日(土)～12月1日(日) ◀◀

## 日本性感染症学会第32回学術大会

### 性の健康教育と性感染症予防啓発とのコラボレーション

**内容**

#### ◆1日目

特別講演「中高生への性感染症予防教育の実際」  
シンポジウム1「今更聞けない性感染症」  
シンポジウム2「増加する梅毒と今後の対応について」  
シンポジウム3「子宮頸がん・尖圭コンジローマ／HPVワクチンの現状と課題について」ほか

#### ◆2日目

基調講演「性感染症制御学の確立に向けて」  
教育講演「性感染症とワクチン」  
シンポジウム4「性感染症のパートナーへの対応」  
シンポジウム5「今の子どもたちの性行動に即した性感染症の伝え方」  
シンポジウム6「新学習指導要領に沿った義務教育における性感染症予防教育」ほか

**会場** メルパルク京都(京都市下京区東洞院通下ル東塩小路町 676-13)

**参加費・問合せ先等**

参加費：医師 15,000円 医師以外 10,000円 学部学生・大学院生・初期研修医無料(証明書呈示)

大会事務局：京都府立医科大学大学院女性生涯医科学(産婦人科) 事務局長：黒星晴夫  
詳しくは、<http://www.atalacia.com/sti32/>

## JASE 性教育研修セミナー 2019 in 大阪

**主催** 一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会  
**共催** SEE (Sexuality Education and Empowerment)  
大阪府立大学女性学研究センター

# 令和時代の若者は、不活発化でセックスレス!?

～日本と中国の「性行動調査」にみる若者像～

日本性教育協会（JASE）が実施した第8回青少年の性行動全国調査の報告と、ほぼ同時期に実施した中国（北京、上海、広州）の「性行動調査」の分析報告、世界の若者の性行動の実態などをもとに、現代の若者の性行動・性意識の変化をみていきます。さらに、それらの報告をもとにこれからの性教育のあり方をみなさんと考えていきます。

2019年  
**12月14日** (土)  
18:00～20:40  
(受付17:30)

### <プログラム>

18:00～18:30 講演① 性行動・性意識の消極化と分極化  
林 雄亮 (武蔵大学社会学部准教授)

18:30～19:00 講演② 避妊行動の実態と性教育の可能性  
土田 陽子 (帝塚山学院大学人間科学部教授)

19:00～19:30 講演③ 中国における性行動・性意識の現状と日本との比較  
守 如子 (関西大学社会学部教授)

19:30～20:00 講演④ 世界の若者の性行動・性意識の変化  
東 優子 (大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授)

(休憩 10分)

20:10～20:40 Q&Aディスカッション  
「これからの性教育をどう進めていくか」  
野坂 祐子 (モデレーター・大阪大学大学院人間科学研究科准教授)

**会場** 大阪府立大学 I-Site なんば (大阪市浪速区敷津東2-1-41)

**対象** 教育、保健、看護、医療関係者、学生、「性」「性教育」「セクソロジー」に関心のある方。

**参加費** 一般 1,000 円、学生 500 円 (当日受付でお支払いください。)

**申込** JASE ウェブサイトの申込ページ  
<https://www.jase.faje.or.jp/support/jasstokyo.html#s1912osaka>  
のフォームからお申込みください。

**定員** 80名



<問合せ先> **JASE** 一般財団法人日本児童教育振興財団内 **日本性教育協会事務局**  
〒112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビルB 1  
(お問い合わせ電話) 03-6801-9307

# 「若者の性」 白書

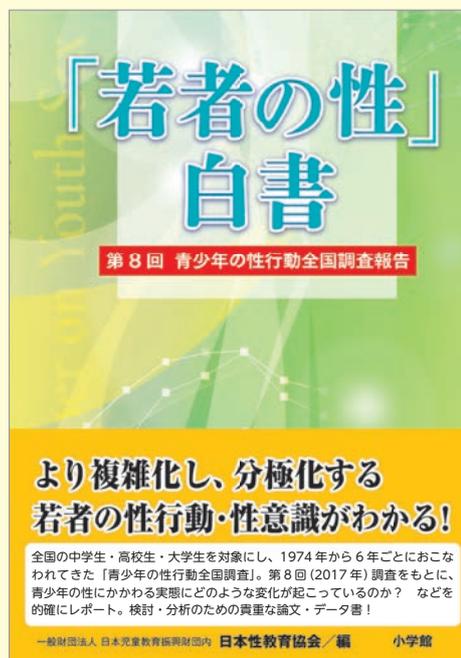
## 第8回 青少年の性行動全国調査報告

全国の中学生・高校生・大学生を対象にし、1974年から6年ごとにおこなわれてきた「青少年の性行動全国調査」。第8回(2017年)調査をもとに、青少年の性にかかわる実態にどのような変化が起こっているのか?などを的確にレポート。検討・分析のための貴重な論文・データ書!

### 主な内容

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み  
～自由記述欄への回答からみえるもの～
- 付表Ⅰ 「青少年の性に関する調査」調査票
- 付表Ⅱ 基礎集計表(学校種別・男女別)

- ※コラム
- 1…性情報について
  - 2…性教育をめぐる近年の社会的動向
  - 3…LGBT学生について
  - 4…男性の性的被害
  - 5…「青少年の性行動全国調査」の困難と課題



**好評発売中!** 本体2,200円+税  
A5判 256ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます!